

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめき Fukuoka



農業で“福祉”を、 福祉を“農業”に

—畑のお仕事で、笑顔輝く—

- 05 福障協だより「団体紹介～第8弾～のびのび pepper」
- 07 身障協だより「共生社会の実現に向けて」
- 11 11月・12月の企画展示情報～福岡市介護実習普及センターより～
- 12 第14回福岡市障がい児者美術展・入賞作品展

2022.11
No. 266

農業で「福祉」を、福祉を「農業」に



「畑のお仕事で、笑顔輝く」



「農福連携」を知っていますか？

国は農業と福祉の連携で、お互いを補完し合うことをビジョンにしており、障がい者であれば農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現する取り組みとして、農業であれば担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながると見込まれています。（厚労省HPより抜粋）今回は、福岡市農林水産局農業振興課と、就労継続支援事業所「とわ・え・もあ」および「どりーむはうす」（社会福祉法人そら）の様子を紹介しながら、「農福連携」に迫ってみたいと思います。

「福岡市の「農福連携」推進事業」

福岡市農林水産局総務農林部
農業振興課 担い手育成係
ご担当者様

農福連携とは何ですか？

市では「農福連携推進事業」として実施しています。これは、農業と福祉の面からお互いを補う目的で推進している事業です。具体的には、農業側では高齢化等によりその担い手が減っていますので、人手不足の解消等を目的に福祉事業所に農作業を委託したり、障がい者を直接雇うというものです。また、福祉側からすると、農家との農作業請負契約を結ぶなど、障がい者の就労を促進するというものです。

ですので、農業も福祉も「Win-Win」になることをビジョンとして押し進めている事業です。

現在どのような状況ですか？

福祉施設職員向けに、農業研修を企画し実施しています。受講された福祉施設から、「ブルーベリー農家を紹介してほしい」との依頼があり、能古島の農家を紹介しました。その福祉施設では、焼き菓子等を販売しており、商

品としてブルーベリーのお菓子を開発したようでした。最近も取引が続いているそうです。

意外に福岡市内で生産されている果物って知られていませんね。こうしたケースがありますから、新商品を検討されている福祉事業所からお声掛け頂けると、何かお力になれるかも知れません。また、令和2年にある農家から「大根の引き抜き」の就労の提案がありました。福祉局を通して募集したところ、就労支援事業所（A型）で実施することとなり、令和3年1月「大根収穫作業」が、農家と福祉事業所との連携で実施されました。

課題や期待があれば、お聞かせください。

課題は福岡市内の農家は家族経営が基本ですから、人を雇い入れることが難しいと思われることが多いようです。また、障がい者となれば、バリアフリーの環境も難しいですね。仮に農家から農作業の募集をしても、福祉事業所側はすぐに対応できないようですね。時間の制約があったりするので、農家が夏の暑い時期に早朝の作業を募集しても、その時間への対応が難しいようです。

中には、こうしたケースもあります。農福連携を推進する以前の話ですが、西区のとある農家で雇われていたパート従業員が辞められました。ただちに人を雇い入れるために、相談をした相手から障がい者を紹介されたそうです。農家は戸惑ったようですが、結局今も働き続けておられます。ご紹介したように、農家と福祉事業所との連携で商品の販売に繋がったケースもありますし、農家が障がい者を直接雇った良いケースがあります。しかしながら、うまく行ったケースはまだ多くありません。

農家の方、福祉事業所の方、少しでも「農福連携」について興味がありましたら、是非お問い合わせください。お待ちしております。

農業振興課

TEL 092-711-4852

就労継続支援事業所「とわ・え・もあ」「どリーむはうす」の農業生産について

社会福祉法人そらが運営している、とわ・え・もあと、どリーむはうすは、就労継続支援事業所です。とわ・え・もあは施設長である青柳さまと、どリーむはうすの中村さまからお話を伺いました。(以下、HP掲載分から抜粋)

【とわ・え・もあ】(福岡市西区羽根戸)

平成16年10月に開設。就労継続支援事業所A型及びB型を運営。

作業内容は(就労A型) 喫茶・厨房接客、菓子製造、(就労B型) 玄米加工品の製造、軽作業、農業などを実施。回復途上の精神障がい者に、適切な作業の実施を通して、生活する力・作業能力の向上と社会参加への意欲を促すことを目的としている。

【どリーむはうす】(福岡市西区石丸)

平成13年12月開所。就労継続支援B型事業所です。主に精神医療機関に通院されている方などが軽作業をしながら、生活のリズムを作ったり、社会と繋がりを持つための日中活動の場として運営しています。

作業内容は軽作業、自主製品の製造(せっけん・カレースペースセット)、園芸活動など主に内職と農作業です。ご本人に合うものを選んでいただいております。社会復帰の一助、外出する練習としてご利用いただければと思います。

もともと両事業所で農業を取り入れた経緯をお聞かせください。

青柳 当初、ご近所の米農家が来られていました。それで農作業を学び、地産地消で、敷地内で獲れた作物をレストランで出したかったのです。利用者の給食にも出し、自給率を上げたいと思つて始めました。

中村 農作業を取り入れてから今年で3年目になります。もともと室内での内職がメインでしたので、とわ・え・もあは農地を使い農作業を取り入れることにしました。健康的で喜ばれる仕事が提供できるのではと考えたからです。

生産農家のような形ではありませんが、自然のペースを尊重しながら、気づきや喜びを感じられる、レクリエーションファームとして活動しています。

収穫された作物には、どのような販売ルートがありますか？

青柳 現在取引先は、30〜40か所です。この10年かけて、「誰が作り」、「誰が加工」、「誰が販売する」という「人が見える」ルートを築いてきました。

つまり、生産者の顔が見え、加工者の顔が見え、どこが販売するかを分かるようになってきたのです。それで、オーガニックの商品を取り扱うお店に卸すことができ、それを機に、のりの生産者等が直接加工の注文をして下さるまでになりました。

また、バイヤー(仕入れを決める

人)へ販売店が要求している商品としてクリアできるかチェックしてもらい、販売店で取り扱ってもらえるか判断して頂いています。

中村 主に収穫物は給食の食材として、また、利用者さんの購入分として提供しています。玉ネギやジャガイモなど、まとまった量が収穫できるものについては、バザー出店時の商品にしたり、近隣の自然食品店さんに取り扱って頂いています。

農作業のお仕事は、どのように取り入れていますか？

青柳 作業内容が内職の方もいらっしゃるのですが、調子が下向きな時に外の作業へ誘います。作業をするかしないかは自由です。

中村 作業分担は希望制です。毎回農作業に参加される利用者さんは大体決まっています。ただ、例えばイモの収穫作業は出たいという方や、木工作業が好きという方などには、作業内容によってその都度声掛けを行なって決めて頂いています。



利用者さんにとって農業のメリットをお聞かせください。

中村 太陽の下で適度に身体を動かして自然に触れることは、利用者さんのストレス発散になり、喜びに繋がっています。

作業後は食欲が出たり、普段あまり眠れない人がよく眠れたという声も聞きます。

自然を相手にしている仕事です。で、なかなか思い描く結果は得られません。畑に正しいアプローチを続けることで土が整い、去年より今年、今年より来年、と希望を持つことができるともメリットだと思います。

逆に、デメリットがありましたらお聞かせください。

中村 工賃に波があることです。現在はまだ畑の状況が整っていないため、他の作業に比べて売り上げが不十分と言えます。いつ、いくら収入が入るかの計算ができるようになるのが課題ですね。

職員さんにとって、どのような時に喜びを感じられますか？

中村 利用者さんが畑で楽しく過ごされている時です。

畑で何が起きているか、野菜が何を欲しがっているかを察するように、それぞれの利用者さんの潜在的なニーズを掘り上げて自分の役割を果たしたいと思いつながり関わらせて頂いています。どちらもまだまだ勉強中ですが、とてもやり甲斐を感じています。

農業と福祉の取組が進んでいますが、今後の期待や願いがありましたらお聞かせください。

青柳 以前は、レストランの料理人として働いていました。ここに就職したのも「福祉」という言葉も知らず、料理人として働きはじめました。しかし、利用者の方々と共に働く中で「人」と「人」の繋がりの大切さを実感しました。これからも利用者の方々が自然に親しみながら、自分らしく生きることができるよう支援をしていきたいと思っています。

農作業が及ぼす、5つのメリット(どりーむはうす 中村氏)

1. 心身のケア (屋外での適度な運動とストレス発散)
2. レクリエーション・喜びの共有(仲間意識)
3. 生命力の高い食材 ⇒ 腸内環境の改善
4. 自然からの学び、気づきの機会
5. 他人に喜ばれる喜び ⇒ 充実感・自己肯定感の向上



どりーむはうす 中村さん



中村 農業と福祉はとても相性の良い組み合わせだと思います。特に、地域循環型アップサイクルの農福連携を進めることが、色々な社会課題を解決に近づける鍵になるように考えています。

私たちの畑の活動では、近隣の公園からは落ち葉や刈草を頂いたり、お米屋さんから籾殻を頂いたりして、多くの方々の善意とご協力の上で成り立っています。こうして楽しく活動できることに感謝しています。



どりーむはうす



とわ・え・もあ

